

春日山原始林保全再生事業の進捗状況

保全方策	H24(2012)	H25(2013)	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R1(2019)	R2(2020)	R3(2021)	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	達成目標
(1) 照葉樹林の良好な状態の維持(植生保護柵の設置)		5箇所の植生保護柵を設置(合計約0.33 ha)	7箇所の植生保護柵を設置(合計約0.80 ha)	20箇所の植生保護柵を設置(合計約1.70 ha)	4箇所の植生保護柵を設置(合計約0.26 ha)			保護柵のあり方の再検討	新規植生保護柵設置箇所の検討	新規植生保護柵実施設計(1箇所)	新規植生保護柵実施設計(7箇所)	3箇所の植生保護柵を設置(合計約0.26 ha、ナギ数量調整跡地)	新規植生保護柵の設置(約0.31 ha)	新規植生保護柵の設置(予定)	新規植生保護柵の設置(予定)	植生保護柵の設置による保全面積の拡充(～令和13年) ※積極的に保全方策を実施する区域:原始林全体の約10.2%(約30 ha)
(2) 照葉樹林の多様性の維持(植生保護柵による後継樹、下層植生等の保全)	後継樹、下層植生等の生育環境調査							モニタリング調査結果の検証(H25設置)	モニタリング調査結果の検証(H26設置)	モニタリング調査結果の検証(H27設置)	モニタリング調査結果の検証(H25からH28設置)	モニタリング調査項目・スケジュールの再検討	新規・継続モニタリング調査	新規・継続モニタリング調査	新規・継続モニタリング調査	多様な植生の保全と種多様性の維持(～令和13年)
(3) 後継樹の育成による文化財としての価値の修復				後継樹種子の試験的な種子採取、播種、苗木の育成	後継樹種子の試験的な種子採取、播種、苗木の育成	後継樹種子の試験的な種子採取、播種、苗木の育成	実施計画に基づく後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	実施計画に基づく後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	実施計画に基づく後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	実施計画に基づく後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	実施計画に基づく後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	落葉樹を含めた多様な後継樹種子採取、播種、苗木の育成	育成計画に基づく後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	育成計画に基づく後継樹種子の採取、播種、苗木の育成	後継樹の育苗手法の確立と育苗の本格展開(～令和30年) 後継樹育成計画 後継樹の育成と修復植栽による森林の再生支援、春日山原始林の遺伝資源の確保(令和7年～令和11年)
(4) 外来種ナンキンハゼの侵入の抑制				ナンキンハゼ拡大状況調査					伐採による駆除の実証実験(25本)	伐採による駆除の実証実験(11本)	伐採による駆除の実証実験(24本)	伐採による駆除の実証実験(10本)→調査で把握したナンキンハゼ70本の伐採の完了				ナンキンハゼの駆除と駆除方法の確立着手から5年(～令和7年)
(5) 常緑針葉樹ナギの拡大の抑制			数量調整の試行実験	ナギ拡大状況調査(生育箇所把握、毎木調査) 「春日山原始林における常緑針葉樹ナギの本格的な数量調整方法(案)」の作成					学識者へのヒアリング 数量調整実施方針の決定、実施範囲の現況把握	ナギ数量調整実施計画の作成	ナギの数量調整の実施(実証実験)	数量調整後のモニタリング調査	数量調整後のモニタリング調査	実施箇所のモニタリング調査の継続	実施箇所のモニタリング調査の継続	ナギの数量調整に係る実証実験の実施着手から5年(～令和7年) ナギが多く生育する(群落を形成する)区域:約9 ha
(6) ナラ枯れの拡大の抑制	緊急を要する保全事業(ビニールによる被覆)		緊急を要する保全事業(ビニールによる被覆)													ナラ枯れ対策の検証とナラ枯れ後の森林更新・遷移に係る保全方策の検討着手から10年(～令和9年)
(7) 花山・芳山地区人工林の保全・利活用	人工林に関する基礎調査、保全・活用方策の検討	檜皮採取(2回、合計266本、1346.9 kg)	檜皮採取(160本、556.0 kg)	檜皮採取(152本、660.0 kg)	檜皮採取(300本、757.5 kg)	檜皮採取(365本、902.5 kg)	檜皮採取(163本、347.8 kg)	檜皮の採取(68本、136.0 kg)	檜皮採取(38本、159.0 kg)	檜皮採取(35本、137.0 kg)	黒皮の採取(17本、110.0 kg)	黒皮の採取(46本、160 kg)	黒皮の採取(46本、160 kg)	黒皮の採取(予定)	黒皮の採取(予定)	森林資源の利活用と方法の検討(～令和13年) 黒皮の採取と採取した檜皮の文化財等への活用
(8) 保全事業を円滑に実施し得る仕組みづくり			春日山原始林を未来へつなぐ会の設立					普及啓発資料案の作成	春日山原始林4K映像の撮影	奈良公園バスターミナル レクチャーホールでの講演会等の開催	奈良大附属中フィールドワークへの協力 市立椿井小への出張授業	市立飛鳥中との協働による実証実験の実施(修復植栽)	奈良公園の自然に関するワークショップ(つなぐ会、バスターミナル)	奈良公園の自然に関するワークショップ(つなぐ会、バスターミナル)		関係機関・人材の連携・協働による、人やシカとの共生を可能とする森林保全方策の実施
(9) 多様な主体の参画																保全事業の担い手の育成、保全事業の充実と継続
(10) 春日山原始林に関する基礎情報のマネジメント																調査結果など保全に係る基礎情報の一元化、データベースの作成、情報の発信
委員会・部会等の開催	第1回委員会 第1回花山・芳山部会	第2、3回委員会 第2回花山・芳山部会	第4、5回委員会	春日山原始林保全計画策定 第6～9回委員会 第3回花山・芳山部会	第10委員会 ナラ枯れWG準備会	第11回委員会 第1回ナラ枯れWG	第12回委員会 第4回花山・芳山部会(書面) 第2回ナラ枯れWG	第13回委員会 第3回後継樹WG	第14回委員会 第4、5回後継樹WG	第15回委員会 第1回3委員会意見交換会	第16回委員会 第2回3委員会意見交換会	第17回委員会 第3回3委員会意見交換会	第18回委員会 第4回3委員会意見交換会	春日山原始林保全計画の更新 第12、13回後継樹WG 第5回3委員会意見交換会		